

デジタル化時代の基幹システムを支える新メインフレーム エンタープライズサーバ「AP10000」



基幹業務の高速化や基幹データの 戦略的な活用を促進

デジタルライゼーションの加速にとまなない、メインフレームにおいても、既存の基幹業務の安定稼働だけでなく、これまで蓄積されてきた基幹データをビジネスの新たな価値創出につなげることが期待されています。一方で、日々高度化し続けるサイバー攻撃に対し、重要なデータをセキュリティの脅威から強固に守る信頼性も必要となっています。

日立が提供するエンタープライズサーバ「AP10000」はVOS3/XS^{※1}を搭載し、高性能・高信頼のプラットフォームとして、基幹システムの安定稼働を支えながら、柔軟で拡張性に優れたオープンシステムとの連携や、先進テクノロジーによる強固なセキュリティを実現。お客さまの既存資産を活かしながら、新たなビジネスの価値創出に貢献します。

※1 Virtual-storage Operating System 3/eXtensible System Product

AP10000 VOS3/XS システムの特長

■処理性能を向上し、 基幹業務の高速化に対応

プロセッサ単体性能を従来^{※2}より約3.8倍、最大処理性能を約2.9倍と向

上。標準メモリ搭載量も従来^{※2}の4GBから64GBに拡大しました。大規模なトランザクションやオンライン処理などを高速化し、企業の基幹システムや社会インフラなどが求める高い性能要求に対応します。また、特定業務を高速化できるアクセラレートプロセッサの性能向上も図り、バックアップや帳票業務などのさらなる高速化を可能にします。

※2 従来モデル「AP8800E」と「AP10000」の比較

■データベース暗号化機能で、 セキュアなシステム環境を実現

ハードウェアによる暗号技術とVOS3/XSの連携により、データベース全体を高速に暗号化^{※3}できる機能を提供。企業データなどの情報資産を、複雑化・巧妙化するセキュリティの脅威から守り、セキュアで安定したシステム環

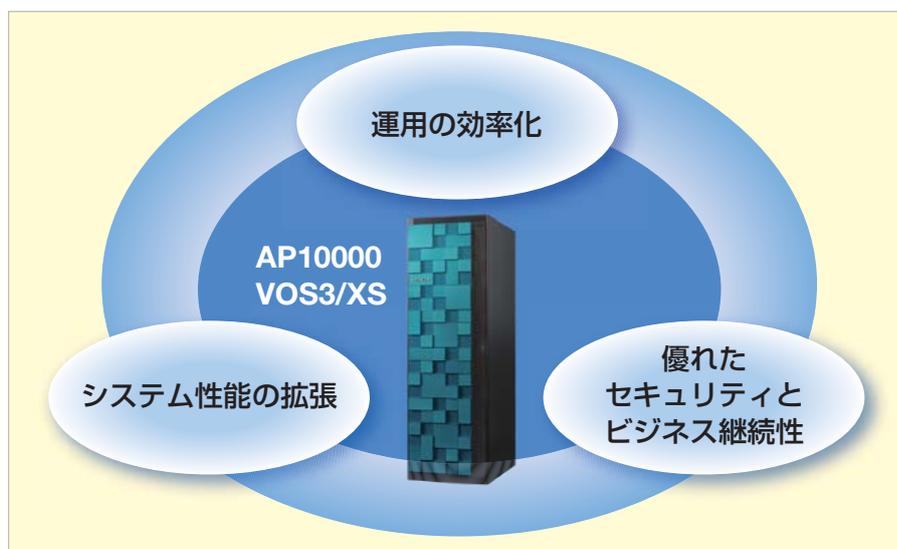
境を実現します(2019年度提供予定)。

※3 共通鍵暗号アルゴリズムAES(Advanced Encryption Standard)に対応

■筐体の省スペース化などで、 システム導入・運用を容易化

筐体に業界標準19インチラックを採用したことで、最大で約80%^{※4}の省スペース化を実現しました。また、Webブラウザを利用したハードウェア管理コンソールの操作を可能とするとともに、これまで専用の周辺装置が必要だったOSコンソール機能やハードウェアの運用管理機能をソフトウェアで提供。OSやハードウェアの運用管理をPCで行えるほか、統合システム運用管理「JP1」と連携したシステム運用の環境構築が容易になります。

※4 従来モデル「AP8800E」と「AP10000」における最大構成時の比較



AP10000 VOS3/XSの特長

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 IoT・クラウドサービス事業部
<http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/mainframe/ap10000/>